

ぶらり 三津浜町屋たび

皆さんは、三津浜に町屋という昔町人が住んでいた家が多くあることを知っていますか？中には町屋を利用したお店もあります！今回は、その町屋を使ったまちづくりの仕掛け、ミツハマルという三津にハマる雰囲気づくりや、ハマれる環境づくりをしていくプロジェクトの紹介をします！（ミツハマルは、松山市がコトラボ合同会社へ委託している事業「三津浜地区にぎわい創出事業」の一部です）

まちづくり

MATSUYAMA NEWS PAPER

松山の学生がひらくまちづくりフリーペーパー No. 20

●発行 「坂の上の雲ミュージアム」指定管理者 西堀ビジネス株式会社 愛城支店 松山市一番町3丁目20番地 ☎089-915-2600

●編集 まちづくり!!まつやま新聞 編集委員会

●協力 坂の上の雲ミュージアム

●制作 セキ株式会社

●部数 15,000部

●発行所 松山市内の市有施設（一部を除く）ほか、坂の上の雲ミュージアム、ローブウェイ駅舎、道後温泉観光案内所ほか 観光拠点で無料配布

三津浜まちづくり、この方に聞きました！



「コトラボ合同会社」 山田由実さん

昨年4月から松山市の委託を受けて、町家バンクという活動を始めました。これは、「震災がきっかけ」「市内に住んでいたが、手狭になってきた」「写真スタジオを持ちたい」など、様々な理由で移住したいという人と、空き家をどうにかしたいと思っている家主さんとをマッチングさせる事業です。見学に来られる方は30〜40代の方が多く、昔にタイムスリップした気分が味わえるという声を頂いています。その結果、これまでに10件のマッチングに成功しています。その他にも三津浜の街を歩く人のために看板を作ったり、三津浜で行われるイベントを裏方としてお手伝いしたりしています。

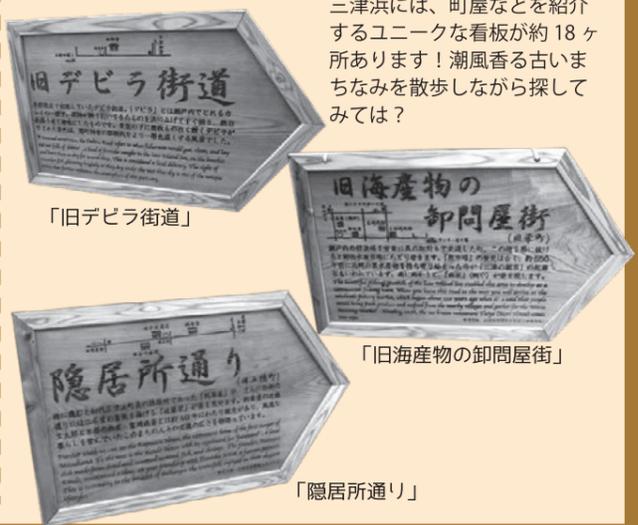
三津浜まちづくり 今後の活動は？

今最も力を入れていることは、10年近く空き家となつていいる古民家の活用です。壊れたものも自分たちで直すことができる方法があるということを知ってもらうために古民家でワークショップを行ったり、古建築の良さや活用方法を体感できる場として、空き家を巡る古建築見学ツアーを行っています。またその活用により、地域の文化や景観保全にもつながり、新しい価値を生み出すことにつながっていくことを伝えるムービーも作成中です。さらに県内外の方に三津浜に興味を持ってもらえるようなマップを作成中です。県外の方の目にも触れるよう、封筒様式の地図と、観光客の方が持ち歩くことができるようリーフレット様式の2種類の地図を作り、無料で配布する予定です。

(佐々木)

三津浜町屋 看板巡りのススメ

三津浜には、町屋などを紹介するユニークな看板が約18ヶ所あります！潮風香る古いまちなみを散歩しながら探してみてもいい？



「旧デビル街道」

「旧海産物の卸問屋街」

「隠居所通り」



「3と6」 三津浜に移住したボイスパフォーマー・中ムラサトコさんのお店。書店には珍しい本などが販売され、手に取るだけでも楽しい。

「アウトレットセレクト RoPa」

主にアウトドアグッズやアメリカジのアウトレットを取り扱うセレクトショップ。築100年の蔵のお店は、とってもおしゃれでわくわくします。



「ビストロサンジャック」

ボイスパフォーマー・中ムラサトコさんの紹介で三津浜に移住した店主さんが経営するフレンチのお店。愛媛の食材にこだわったお料理やライブも楽しめます。(渡部)



三津浜町屋を利用した お店へGO!!

これ何なん？まつやま検SHOW！

学生がまちを変える！？

皆さんは松山市が行っている「学生による政策論文募集事業」を知っていますか？「学生と政策」一なんて、ちょっと聞きなれない組み合わせですが、これは学生のアイデアをまちづくりに活かすための取り組みです。そこで、これまで同事業に提案された学生のアイデアが実際、どのように施策に活かされているのか、担当する松山市総合政策部企画政策課のお二人に取材してきました。



実際に政策論文を書いた私たちが取材してきました!!

政策論文って何？

「学生による政策論文募集事業」は、平成11年からスタートし、平成26年度で第16回目を迎えています。「松山市には多くの学生がおり、その柔軟な発想やアイデアをまちづくりに役立ててはどうか」という市職員の発案がきっかけでした。応募件数は最も多い年度は200件を超えたこともありましたが、テーマは、交通、観光、商業施設に関するものが多いそうです。



史跡庭園「庚申庵」

どんな風に活かされているの？

学生の声はどのような施策に反映されているのでしょうか。実際に政策論文のアイデアが反映された例をみると、老朽化の著しかった県史跡「庚申庵」の復元整備。「庚申庵」は現在、文化交流の場として市民に親しまれ、観光地にもなっています。また、施設情報を盛り込んだバリアフリーマップやホームページの作成など、住みやすいまち松山のPRにつながっているそうです。



バリアフリーマップ

学生 × 政策

市の方は「広く自由に提案してもらい、学生にまちづくりを考えるきっかけにしてほしい。学生のときにしか気付かないこともある。」とおっしゃっていました。松山市には県内外から集まった学生が多く、さまざまなまちとの比較もしやすいはず。その視点や感覚を積極的にまちづくりに生かせるようになれば、もっともっと魅力的で面白い松山市になりそうですね。みなさんもぜひチャレンジしてみてもいい？

(亀田・安田)



生田真太郎さん(左)、宮内真さん(右)

編集後記〜卒業生からの一言〜



▼4回生 佐々木優大

まつやま新聞では2年間の間、お世話になりました！大学で初めてやってきた松山、まつやま新聞に関わることが出来たからこそ、その良さに気づけたと思います！短い間でしたが、本当にお世話になりました！後輩のみなさん、続けていってくださいね！



▼4回生 渡辺奈央

まつやま新聞には1年間デザイン担当として途中から参加させていただきました。今まではプロのデザイナーが担当していたので、いろいろな意見を取り入れながら自由な発想で取り組むことができたと思います！本当にありがとうございました。



▼4回生 山内菜摘

2年間、お世話になりました。新しい世界のドアを開けたことにより、新たな出会いもたくさん生まれました。自分で書いた文章が形になるのは少し恥ずかしかったけれど、大切な思い出です。ありがとうございました。



▼4回生 山本真帆

編集員としての活動は、大学生活のスパイスでした！イベントの審査員やスタッフ等は編集員でなければできない経験だったと思います。約2年間、ありがとうございました！

中島の豪華料理はいかが？



みなさん、野生のイノシシを食べたことがありませんか？ 近年多くの被害を出している野生動物たち。その野生動物を食べるにより、被害の軽減や食育の場での活用の可能性もあるようです。敬遠される方もいると思いますが、言わば日本のジビエ料理とも言えますよね。

本来は山奥で生活していたイノシシやシカといった野生動物が、近年では民家近くまで降りてきてしまいがちです。松山市では農作物に被害を与えるなどの理由で対策が講じられています。今回の舞台は中島です。島民が減少している関係で耕作放棄地が増えており、野生動物の格好の住みかたとなっています。また、島民にも被害が出るというところで問題になっています。

みなさん、このような野生動物をどう思いますか。放置しますか？ 関わりたくないようにしますか？ 私は少し違う考えを持っています。それは「食べる」ということです。捕獲したものを食べることで、食や命の有害な気配がなくなり、鳥獣被害も少なくなると思われます。小・中学生の食の教育にも使っていけるのではないのでしょうか。

(浜名・山内)

いきなりですが皆さん、「農音」ってご存知ですか？

『農業』と『音楽』で地域を結ぶNPO法人



中島は全国屈指の柑橘産地として知られていますが、現在、少子高齢化や島離れによる人口減少、耕作放棄地の拡大などの問題を抱えています。NPO法人「農音」はこれらの解決、すなわち地域活性化を目指して、活動を行っています。それでは、「農音」の活動を覗いてみましょう！

日々みかん畑に足を運び、自然と向き合いながら剪定や摘果を行います。近年では見ることも少なくなった石垣も、中島では重要な栽培方法として継承されています。生産者減少のなか、このような技術を受け継ぎ、後の世代に伝えていくことを担っています。

農業 × 音楽

日本各地から様々な楽器プレイヤーが集まり自然と音のセッションを楽しんでいます。また、イベントでの演奏、動画サイトにミュージックビデオの投稿などを行い、島や農産物の魅力を発信しています。

農音が企画運営している1泊2日のワークショップ

『島に住む*ただし1泊2日』に参加してみた！

1日目
11月23日(☀)

11:30
大浦港集合
昼食@喫茶ヒロ

アワビを丸々1個使った
忽那水軍カレーをいただき
ました。こんな贅沢が
気軽に味わえるのも島な
らではだと思えます。

13:00 中島一周ドライブ

15:00
釣り(堤防にて)

私(中嶋)は一匹も
釣れませんでした。が、
他のみんなはたくさん
釣れていたようです...

18:00
夕食
(シジ鍋・タンド
リーイノシシ)



その日にとれたイノシシ
はなんてたって鮮
度抜群!! 獣臭さも全
くなく、歯ごたえがよ
くおいしかったです。

2日目
11月24日(☀)

9:00
石垣修復作業



崩れた部分を一か所、10
人ほどでなんとか直すこ
とが出来ました。石垣が
ノシシなどによって壊
れがなくなっているの
です。修復を追い追いつ
けるためには、組み上げ
るの向上と人手が必要に
なると感じました。

10:30
みかん収穫

袋に入りきらない程たくさん、
収穫させていただきました。

12:00
郷土料理作り
(さつま汁・鯛飯)

新鮮な鯛のすり身をすり
鉢ごとひっくり返してコ
ンロにかける、かなりワイルドな調理法でしたが
味は絶品!!

15:30 神浦港解散

参加してみた

一番に感じたのは、このワーク
ショップはよくある体験活動を詰め
込むのではなく、日程にゆとりをも
たせ、島らしいゆったりとした暮ら
しを体験できることでした。自然を
満喫したり、釣りに行ったり、島の
人たちのんびり話したり、思い思
いに島を満喫する時間を過ごすこと
が出来ました。これほど近くに素晴
らしい場所があるのに、一度も行って
たことがないのはもったいないです。



中嶋編集部員

ワークショップ参加希望者は
Facebookにて「島に住む*ただし
1泊2日」を検索してください!



独特の臭みもなく、美味しくい
ただけです。もう、あの味を覚えて
しまおうとやみつきになること間違
なし。僕も初めは食べられるか心配
でしたが、今までのイノシシのイメージ
が変わりました!

- ※美味しい食べ方
- ①新鮮なうちに下処理を行います。
 - ②丁寧にさばきます。
 - ③その日のうちに、煮込みます。
 - ④アツアツのうちにいただきます!!

2面取材させていただいた
「農音」のみならず、ご協力のもと、
今、中島でトレンドの「猪鍋」
を体験させていただきました。

「猪鍋」ってなんぞ?

浜名慶太の突撃レポート

まちづくり掲示板

イベントのお知らせ

【坂の上の雲ミュージアム】

●第9回企画展テーママ展示

「近代国家制度の形成」
子規・真之の青春

【会期】平成27年2月24日(火)
〜平成28年2月14日(日)

【休館日】毎週月曜日(休日の
場合は開館)

【開館時間】9時〜18時30分(入
館は18時まで)

【観覧料】一般400円(32
0円)、65歳以上の高齢者20
0円(160円)、高校生20
0円(100円)

※中学生以下は無料

※(一)内は20名以上の団体割
引料金

【概要】子規・真之の青春時代の
教育や生活、人びととの交流
をみていくなかで、書生とよば
れた明治の若者たちの実像に迫
ります。



坂の上の雲ミュージアム

【坂の上の雲ミュージアム】

●土曜コンサート

【内容】『坂の上の雲』や
主人公、松山などをテーマ
に「音」を通じてメッセー
ジを発信。ギターやバイオ
リン、箏や三味線など様々
なジャンルによる演奏を行
います。三角形のホール全
体に広がる、ミュージアム
独特の音の「響き」をお楽
しみください。

【開催時間】毎月第2・第
3土曜日 14時〜14時30分

【料金】無料

【場所】2階ホール

【お問い合わせ】松山アー
バンデザインセンター
089-968-2920

【お問い合わせ】松山アー
バンデザインセンター
http://udcm.dmi.nime-u
-ac.jp/

地域活性の担い手、農音。

「NPO 農音」代表、田中佑樹さん(35歳)にインタビュー。
移住者たちが仕掛ける活性化のイメージは...



魚に恵まれ、星空がきれいな地、中島に移住したのは3年前です。現在は、農音として、自らが先だって生活しながら、移住促進の土台作りを行っています。農業だけではなく様々な形で、生活できる環境を整え、移住後も気を配ることを忘れません。島は人手不足が深刻で、パッと来て、すぐ働ける場所も結構あります。農村は資源豊富な魅力と、多種多様な人材を受け入れる、大きな可能性を持っています。まずは気軽に島へ遊びにきていただきたいです。

学生さんには、松山周辺の過疎地に触れる機会を作り、積極的に現地へ赴き、若い人ならではの発想を活かして実践してほしいです。模索しながら世の中に携わる経験は、就職した後も役立つ創造力を培うでしょう。どうか、自身の未来を切りひらく人材となってください。

取材に伺って

ストレスフリーな生活を、田中さん自らが示している印象を強く受けました。論より証拠という言葉の通り、その姿を見てきた農音メンバー(移住者)は、代表に厚い信頼を寄せています。仲間が集い、音を奏で、自身の力でPVまで作る。そういった共同作業の産物が、農音の「和」を築き上げてきたのではないのでしょうか。初対面にも関わらず、気さくに話し掛けてくださいました。

(伊藤・中嶋・岩佐)

みかんのハイシーズン(冬)を除く、いつでも、中島にて農業体験の活動を開催する予定だそうです。詳しくはHPをご確認ください。HP: <http://noon-nakajima.com/> mail: info@noon-nakajima.com